

■ハイセイコー記念(SⅡ)アラカルト(過去10年の分析)

※記録は10月25日時点のもの

■準重賞ゴールドジュニアーの上位馬(1着~3着)が好成績

- ◇1~3着馬は22頭が出走し3勝、2着2回、3着5回と、半数近くの馬が3着内に入っている。
- ◇過去10年で4回の連対、3着以内6回と好走。
- ◇ゴールドジュニアー4着以下の馬は、1勝、2着1回。

■ゴールドジュニアー不出走で、当日1番人気の馬の傾向

- ◇第41回 ノーステイオー(3着)←(3戦2勝、鎌倉記念)
- ◇第43回 セルサス(1着)←(3戦2勝、2着1回)
- ◇第44回 ガトリング(7着)←(2戦2勝)
- ◇第45回 ブラックワード(11着)←(4戦2勝、2着1回)
- ◇第46回 ジュリエットレター(3着)←(3戦1勝、2着1回、3着1回)
- ◇第47回 ラッキープリンス(7着)←(5戦4勝、3着1回)

■鎌倉記念の出走馬にも要注意

- ※川崎の2歳重賞・鎌倉記念(平成18年は休止)出走馬は1勝、2着2回、3着1回と要注意。
- ※昨年は日程変更により、ハイセイコー記念後の10月21日に鎌倉記念を実施。

■キャリア3~5戦の馬が狙い目

- ◇3着内30頭中27頭がキャリア3戦以上。
- ◇キャリア2戦以下の馬は1着1回、2着1回、3着1回。
 - 第39回3着 レッドドラゴン(2戦1勝、ゴールドジュニアー3着)
 - 第40回2着 コラボスフィーダ(2戦2勝)
 - 第46回1着 ブラックヘブン(2戦1勝)
- ◇キャリア6戦以上の馬は1着1回、2着1回、3着2回。
 - 第43回3着 エースキッド(6戦)
 - 第45回3着 ナリチュウドラゴン(6戦)
 - 第47回1着 ストゥディウム(6戦)、2着 オウマタイム(6戦)

■キャリア3戦以上の全勝馬はすべて3着以内

- ※3戦以上の全勝馬は3頭が出走し1勝、2着0回、3着2回で、3着内率100%の好成績。

■連対馬20頭中13頭は3着内率100%

- ◇1度でも4着以下に敗れたことがあったのは以下の7頭
 - 第43回2着リョウウン(4戦2勝、3着1回)
 - 第44回2着アイキャンデイ(5戦3勝)

第 45 回 優勝ソルテ(3 戦 1 勝、3 着 1 回)

2 着ヴェリイブライト(4 戦 1 勝、2 着 2 回)

第 46 回 2 着ドラゴンエア(4 戦 1 勝、2 着 2 回)

第 47 回 優勝ストウディウム(6 戦 2 勝、2 着 1 回、3 着 1 回)

2 着オウマタイム(6 戦 3 勝、2 着 1 回)

◇3 着馬 10 頭中 7 頭が連対率 50%以上。

※例外の 3 頭は第 43 回 3 着エースキッド(6 戦 2 勝)、第 47 回 3 着ヴェスヴィオ(3 戦 1 勝、3 着 1 回)、
第 48 回 3 着フォクスホール(新選特別 6 着)

■連対馬20頭中18頭が前走で3着以上

※例外の 2 頭は第 43 回 2 着リョウウン、第 45 回優勝ソルテの 2 頭。

※3 着馬 10 頭中、前走 4 着以下の馬は 1 頭。

第 48 回 3 着フォクスホール(新選特別 6 着)

■ホッカイドウ競馬の出身馬はいまひとつ

※3 歳クラシックで毎年のように活躍するホッカイドウ競馬の出身馬だが、19 頭が出走し 1 勝、2 着 1 回、
3 着 1 回。

■牝馬は1勝、2着1回

※牝馬は 14 頭が出走して、第 44 回ドラゴンシップが優勝。また 2 着も牝馬アイキャンデイだった。

■外国産馬の優勝はなし

※外国産馬の出走は過去 10 年間で第 47 回ルックスザットキル、第 48 回ワールドプリンスの 2 頭の
み。また、優勝すれば史上初となる。

■馬体重の増減はひと桁が理想

※3 着内馬 30 頭中 28 頭が、前走から馬体重の増減はひと桁だった。

■TCK 所属と船橋所属が4勝で互角

◇TCK 所属馬 4 勝、2 着 3 回、3 着 7 回。3 着内率 46.7%

◇船橋所属馬 4 勝、2 着 5 回、3 着 2 回。3 着内率 36.7%

◇川崎所属馬 2 勝、2 着 2 回、3 着 0 回。3 着内率 13.3%

◇浦和所属馬 0 勝、2 着 0 回、3 着 1 回。3 着内率 3.3%

※TCK 所属馬は第 24～38 回にかけて 15 連勝の実績がある。

※船橋所属馬の優勝は 4 頭。また出走した 22 頭中半数の 11 頭が 3 着内と健闘。

■上位2頭に全日本2歳優駿の優先出走権を付与

※これまで上位 2 頭から 9 頭が出走し 3 着 1 回(第 41 回優勝ナイキハイグレードが全日本 2 歳優駿 3 着)。

■上位3頭の翌年のクラシック成績

◇3 着内の馬で南関東クラシックを制覇した馬

第 40 回 3 着 ニックバニヤン⇒羽田盃優勝

第 41 回 優勝 ナイキハイグレード⇒羽田盃優勝、東京ダービー3 着

第 42 回 3 着 マグニフィカ⇒JDD優勝、東京ダービー3 着

第 47 回 優勝 ストゥディウム⇒羽田盃優勝

◇3 着内の馬で南関東クラシックにおいて2・3 着に入った馬。

第 39 回 優勝 ロイヤルボス⇒東京ダービー3 着

第 40 回 2 着 コラボスフィーダ⇒東京ダービー3 着、JDD3 着

第 45 回 優勝 ソルテ⇒羽田盃2 着、東京ダービー3 着

第 46 回 2 着 ドラゴンエアル⇒羽田盃3 着

第 47 回 2 着 オウマタイム⇒羽田盃2 着

〃 3 着 ヴェスヴィオ⇒東京ダービー3 着

第 48 回 優勝 トロヴァオ⇒羽田盃2 着

■上位人気馬が6勝

◇1 番人気馬 2 勝、2 着 0 回、3 着 4 回。3 着内率 60.0%

◇2 番人気馬 3 勝、2 着 4 回、3 着 1 回。3 着内率 80.0%

◇3 番人気馬 1 勝、2 着 4 回、3 着 2 回。3 着内率 70.0%

※上位 3 番人気馬までは 6 勝、2 着 8 回、3 着 7 回。

※1 番人気馬の 3 着内率は 60.0%だが、優勝は 2 頭だけ。

■石崎駿騎手が2勝

※石崎駿騎手は第 43 回、第 47 回で優勝。

※的場騎手は今年優勝すれば通算 9 勝目となり、自身が大井記念で持つ南関東同一重賞勝利記録と並ぶ(廃止競走も含む)。

■川島正行調教師が2勝

※同調教師は第 41 回、第 44 回で優勝。

※歴代最多勝利は矢作和人調教師(引退)の 4 勝。

■⑦番、⑪番が2勝

馬番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
1着	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0	2	1	1	0	1	0
2着	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	1	1	0	1	1
3着	0	1	0	1	1	0	1	0	4	0	2	0	0	0	0	0

■ハイセイコー記念(SⅡ)アラカルト(過去48回の分析)

※第33回までは青雲賞競走として実施

※第35、36回は1590mで実施

※第22回は3着同着のため3着馬49頭

※記録は10月25日時点のもの

■1番人気馬が堅実な成績

◇1番人気馬 17勝、2着9回、3着7回。3着内率68.8%

◇2番人気馬 8勝、2着12回、3着5回。3着内率52.1%

◇3番人気馬 8勝、2着8回、3着7回。3着内率47.9%

■3番人気以内の馬による優勝が68%強

◇48回中33回が3番人気以内の馬による優勝(68.8%)

◇48回中18回が3番人気以内の馬によるワンツー(37.5%)

◇48回中35回が5番人気以内の馬によるワンツー(72.9%)

◇48回中6回が3番人気以内の馬によるワンツースリー(12.5%)

■翌年クラシック制覇した馬は9頭

(翌年の南関東クラシックを制したハイセイコー記念の優勝馬は9頭)

第3回 フジプリンス(羽田盃、東京ダービー)

第9回 サンコーモンド(東京ダービー)

第14回 ホスピタリティ(羽田盃)

第25回 ブルーファミリー(羽田盃、東京王冠賞)

第27回 ジョージタイセイ(東京ダービー)

第30回 ゴールドヘッド(羽田盃)

第41回 ナイキハイグレード(羽田盃)

第42回 マグニフィカ(ジャパンダートダービー)

第47回 ストゥディウム(羽田盃)

■牝馬は5勝

第6回 オロマツホース

第10回 リマンドタイコウ

第23回 フジノリニアー

第29回 セイントサブリーナ

第44回 ドラゴンシップ

■外国産馬の優勝はなし

■的場文男騎手が8勝

※同騎手は最多勝の8勝で、今年勝利すれば自身が大井記念で持つ南関東同一重賞勝利記録と並ぶ（廃止競走も含む）。

■歴代最多勝利は矢作和人調教師（引退）の4勝。

■②番、④番、⑥番、⑦番、⑩番、⑪番が各5勝

馬番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
1着	2	5	2	5	2	5	5	3	4	5	5	3	1	0	1	0
2着	9	4	1	3	6	3	5	5	2	0	2	3	2	1	1	1
3着	7	4	4	2	4	3	4	2	6	6	4	0	2	1	0	0

■枠番は⑧枠が11勝で最多

枠番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1着	3	4	4	7	7	4	8	11
2着	9	5	2	5	7	6	6	8
3着	7	4	6	2	9	6	8	7